

# “鮮度一番！”

No.234

～女性と男性が支え合う社会をつくる～

CONTENTS

1～2 / 第23回三条女性会議総会 記念講演より 第5回

2 / ひとことコラム

2～3 / 運営委員会で話し合われたこと

4 / ヌエック感想 編集後記

第23回三条女性会議総会 (H30.5.26) 記念講演会より 第5回

## 家庭教育の大切さについて

～教育現場と少年センターをとおして見えてきた子どもの今～

講師 梅津玲子

(新潟県立大学非常勤講師/新潟県社会教育委員等)

みなさん、「江戸しぐさ」ってご存知ですか。一番最後に資料にものせました。江戸の教育方針で、三つこころ、六つしつけ、九つ言葉、十二ふみ、十五ことわりで未決まると申しまして、脳と身体と心が糸で結ばれており、この糸を「心」と考えておりました。おぎゃーと生まれて3歳までに心の糸をいかにはりめぐらすか。熱い冷たい、暑い寒い、辛い甘い、痛いかゆい、重い軽い、快い不快、などの感受性や、土や、草木、気象、あまたの生き物などの自然感覚、兄弟姉妹、仲間から人や世間の動き、そういうつながりやかかわりの実体験が、「心」を育むのに大事なことなのだと「江戸しぐさ」では教えています。江戸の人たちはすごいですね。本当に理にかなっているのです。子どもの「脳」は肌にあると言う人もいます。なでなでしたり、こちょこちょしたり、さわらせたり、こんなことが「おもいやり」をも育て、脳を活性化させていきます。心を育てるのです。低学年のうちはまだまだこんなこともしてあげてほしいと思います。

少し話は変わりますが、私が気に掛かっていたことを書き留めていたものです。マイナス面ばかりで、うんざりするかもしれませんが、この「ないないづくし」から言えることは、いかに親が子どもに親身になって教えていないかがわかります。家の中での生活・文化体験が乏しいのです。体験には、様々あります。家ではくつのぬぎ方から食事の仕方、食事の準備・後片付け、そうじ、など子どもに教えることはたくさんあります。高学年になると家庭科の調理実習がありますが、たまごわれない、お米とげない、包丁持てない、リンゴの皮むきできない、などなど、生活体験が乏しいことがよくわかります。その他、体験には、自然体験、社会体験などありますが、私は学校現場にいて、学校では意図的にさまざまな体験をさせたいと願い機会を作っていました。

以前に文科省が発表した調査によれば、子どもの頃の体験が豊富なほど、規範意識・職業意識・人間関係能力・文化的な作法や教養・意欲や関心等が高い傾向にあることが明らかになりました。つまり、さまざまな体験をさせることが非認知能力を高めるということです。これから、お金をかけずに身近なところで体験させてください。家での生活体験をどんどんさせてください。

今、気に掛かるのは「食事のマナーわからない」です。学校は給食の時間があります。子ども・親ともに出ています。給食の食べ方を見ると、家庭でのしつけがよく見えます。親が生きる源である「食」を大切に思っているか思っていないか、食事に対するしつけ、食を通しての生きる力の伝え方で子どもの育ちが違ふと思います。好き嫌いが多く、肘をつき、足を組み、だらだらとおいしくなさそうに、箸もろくにもてない、食事中なのに席を離れる等、みんな子どものせいではありません。教えられていないからできないのです。教えられれば分かるのですが…。一人で食べることも多いのではないかと思います。一人で食べることもあるかもしれませんが、孤独な食事にしないことです。会話がはずみ笑顔になれる食事は副交感神経が優位になり、胃腸の働きもよくなり、免疫力もアップします。今からでも遅くありません。どうか食事についてチェックしてみてください。食は生きる力の源です。特に朝ご飯は絶対に食べさせてほしいと思います。現在、「子どもの貧困」がクローズアップされております。一緒に食べたくても食べられない事情も多々あると思いますが、親の責務として、子どもをフォローしてあげてほしいと思います。負の連鎖がますますはびこらないことを切に願っています。新潟市でも「子ども食堂」の活動が輪を広げ始めています。学校ではもちろん食育にも力を入れています。

子どもは親のかがみと昔から申しますが、子どもをみれば親の姿もみえてきます。どうか、食事以外にも基本的な生活習慣がきちんとできているかどうか見てください。「食事」「睡眠」「排泄」「清潔」「衣服の着脱」、プラス、あいさつや礼儀などです。低学年によくありましたが、便器に大きいものが流さずにあるのですよね。今は自然に流れるトイレだからでしょうかね。

### ・・・ひとことコラム・・・

NK

先日、今年の流行語大賞の候補発表がありました。

あんな話題こんな話題・・・、あったあったと思い出しながら1年があつという間に過ぎることに本当に驚くばかり。すでに昨年の流行語がなんだったか・・・？思い出すことができません。

調べると「インスタ映え」と「忖度」とのこと。「忖度」が流行語なんて嫌ですね・・・、今年「首相案件」なんていうのが入ってますがこれもまた嫌ですね・・・。

個人的には某放送局の人気番組キャラクター、5才のチョコちゃんが大人に向かって吐く『ポーっと生きてんじゃねえよ！』今年これかな？と思っています。面白いし毒もあります。思わず笑ってしまいます。ただしかし、番組中は話題がたわいのないことが多いので自分がなーんにも知らずにポーっと生きてることを笑ってすませていますが、番組を離れよくよく自分の生活を見回すと、本当に本当に知らない事ばかりで、私はポーっと生きてると痛感。自分の生活の安心安全、全く人任せ。知らずに、と言うか知ろうとせずにすませていることばかり。

食品のことやエネルギーのこと、社会の不正や欺瞞等々。

「まずいぞ」と危機感感じつつ、結局日常に追われ夜になると眠くなり、朝が来るを繰り返す。笑ってる場合じゃない。そして反省。

『反省だけなら猿でも出来る』1990年代の始め頃流行りましたね・・・、この言葉。

## 運営委員会で話し合われたこと

日 時 平成30年11月7日(水) (AM9:30~11:30)

場 所 三条市男女共同参画センター



次回の運営委員会は、12月5日(水曜日)9時30分から男女共同参画センターです。  
どなたでもおいでください。

## 1. 何か報告はありませんか？

前回の運営委員会で、初代代表の佐藤リヤウさんから退会の電話のあったことを報告したところ、田辺とも子さんが今までの感謝の意を込めて手紙をいただきました。三条女性会議の立ち上げから、苦労をともにしてきた様々な思い出と共に、今まで暖かい応援を続けてきてくださった佐藤さん、本当にありがとうございました。

また、10月4日から7日まで開かれた「燕三条工場の祭典」ですが、身近にある会社へ実際に入ってみると、知らないことが多くて実に楽しかった。また、その参加者も県内のみならず、全国、または海外からも多くの人の訪れるイベントとなっているので、来年もまた参加したいという感想がありました。

## 2. にいがた女性会議より「30周年記念誌」が、届きました

10月27日に30周年記念事業をしたにいがた女性会議から、落ち着いた紫色の記念誌が届きました。30年分をまとめる労も大変だったろうと思います。今、女性の活動を記録として残すことの価値が見直されています。興味のある方は、お貸ししますので連絡をお待ちしています。



## 3. 出前講座&新年会について

あっというまに年賀状の注文をする時期になりましたが、来年も、皆様と元気にスタートをきりたいと思います。万障お繰り合わせの上、ためになる講演と美味しいお食事を一緒にいただきましょう！

- ◇日 時：2019年1月19日(土曜日)午後3時から
- ◇会 場：男女共同参画センター
- ◇出前講座：自分も相手も大切に！～ストレス知らずに毎日を過ごす方法～
- ◇講 師：はっぴーズ コミュ 代表 土田陽子さん
- ◇参加費：無料

引き続き新年会

- ◇時 間：午後5時から
- ◇会 場：0256 bistro&meals (三条市桜木町12-38 三条ものづくり学校106  
電話0256-34-6725)

◇会 費：4,500円(飲み放題)

◇申込・問合せ：野崎まで

- ・電 話：080-1042-9788
- ・FAX：0256-32-3679(下記にご記入の上  
ファックス用紙としてお使いください)
- ・メール：michiko6080 または [info@joseikaigi.net](mailto:info@joseikaigi.net)

出前講座・新年会 へ参加します

お名前

## 【又エックの感想】

平成 30 年度男女共同参画推進フォーラム

8 月 31 日開催のワークショップ

「主体的に活動を続ける 7 人の女性音楽家と

その音楽を紹介する講座」に参加しました。

田辺とも子

“女性が主体的に”という言葉にひかれ参加した。主催者は、世界の音楽を聴こうミュージックトラベル代表本田純さん。長年レコードや CD を収集し、東久留米市男女平等推進センターの運営協議会委員になったおり、女性シンガーソングライターを紹介する講座を企画した。なぜ女性か、①歌が素晴らしい②生きる上で影響を受けた③曲の中身が濃い。なぜ男性シンガーソングライターより深いと感じたか、(井上陽水は除く) 男性と女性の生きる目的、ビジョンの違いだと思う とのこと。

約 2 時間で、7 人の 7 曲を紹介しながら、おりおりに本田氏のコメントが入る。

富貴晴美「西郷どん」、松任谷由美「旅立つ秋」、岡本孝子「潮の香りの中で」、指揮 西本智実「モーツァルト(後宮からの逃走)序曲」、他。

私は、楽曲の内容と作者のこだわりなどが解説されると期待していたが、一般的なプロフィールと、本田さん自身の感想をのべるにとどまり、少しガッカリ。しかし普段は、家事をしながらの「ながら鑑賞」なので、じっくり、しみじみ、音に集中することの贅沢を味わえたことは良かった。そして、今回のキーワード「異質なものが会って新しい価値を生み出す」と例にあげた、ロックとジャズの出会いでジャズロックが生まれたと、ジェフ・ベックの「レッド・ブーツ」を紹介。「わーっ会館にロックが鳴ってるうー！」軽いショックが愉快に変じ、こんな講座もいいなと思った。

「夕食は一日頑張った自分へのご褒美であるので自分でつくる。これが自分の当たり前。妻も自分で好きなものを食べてる」と終盤のコメント。本田さんのプライベートにツッコミを入れたい思いもあったが、スルーして終了した。

### 編集後記：

我が家の柿の木の葉があと残り数枚、桐の葉も同様で寒空に裸ん坊になってしまいました。来年またたくさんの実をつける為の準備に入ったようです。わずかになった柿の木を見上げ鮮度一番に書かれた兼古さんの断捨離を思い出しました。来年に向けてちょこっと身軽になってフットワークをよくしなければ・・・！

鮮度一番 234 号お届けします。どうぞ隅から隅までお読みください。(原)



編集発行：三条女性会議・代表 野崎ミチコ

連絡先：三条市田島 2 丁目 12-12 Tel 32-3667 FAX 32-3679

ホームページアドレス：<http://www.joseikaigi.net>